

北諸県地域の普及活動（普及活動月報）

令和8年2月

北諸県農林振興局

（北諸県農業改良普及センター）

目次

- I 管内の農業・農村の主な動き
- II 主な普及指導活動等の取組
 - 1 総合プロジェクトに関する普及活動
 - （1）北諸県地域を支える多様なアグリプレイヤーの確保・育成
 - （2）北諸県地域の持続可能な肉用牛産地づくり
 - （3）地域を牽引する集落営農法人の育成による収益性の高い北諸県農業の構築
 - （4）農地と水を活用した魅力ある大規模畑作経営体の育成
 - 2 専門プロジェクトに関する普及活動
 - （1）高品質茶生産、コスト低減による茶業経営の安定化
 - （2）高い生産性を実現する施設きゅうり産地の育成
 - （3）生産者が描く未来ビジョンを達成できるいちご産地の育成
 - （4）産地ぐるみでブランド化に取り組むへべす産地の育成
- III プロジェクト以外の普及活動（一般活動）

北諸県地域の普及活動（普及活動月報）

令和8年2月

北諸県農林振興局

（北諸県農業改良普及センター）

I 管内の農業・農村の主な動き

（1）みやざき花の祭典2026が開催、北諸県地域からも花き品評会に出展

1月31日から2月1日にかけて、イオンモール宮崎にて、みやざき花の祭典2026が開催されました。今回は、6年ぶりとなる品評会も開催され、県内各地からの200点を超える出展物が展示され、会場は華やかに彩られました。

北諸県地域からは7点と少数の出展となりましたが、金賞及び特別賞の受賞が1点、銀賞2点、銅賞2点と高い成績を収めました。

出展物も気合いを感じる高い品質のものが並び、採花や出荷調整で忙しい合間を縫って会場に見に来ている花き生産者の皆さんも意欲を新たにしている様子でした。



（北諸県管内生産者の出展物）

（2）令和7年度野菜生産連絡協議会 支部長・専門部会長会（新春懇話会）

10日、都城グリーンホテルにて、JAみやざき都城地区本部野菜連絡協議会の支部長・専門部会長会が開催されました。

今回は、協議会の体制について、現況の9支部・8専門部会から、9専門支部に再編する案について、JAから説明がありました。

今後1年間をかけ検討が行われる見込みで、負担軽減、活動の活発化が期待されます。



（支部長・専門部会長会）

(3) 営農振興協議会園芸部会 視察研修

18日、園芸部会メンバー12名で熊本県甲佐町にあるマルハナバチ及び天敵昆虫を生産・供給する企業を訪問し、生産体制や利用上の注意点について説明を受けました。

マルハナバチでは高温時における巣箱の温度管理などの留意点、天敵では対象害虫や温度条件に応じた使い分けと組み合わせによる防除体系の考え方について理解を深めました。

当管内の施設園芸では天敵の利用が進んでいるため、今回得られた知見を踏まえ、より効果的な活用に向けた生産者指導に生かしていきます。



(研修中)

(4) 令和7年度宮崎県農業経営指導士会特別研修会の開催

4日、県庁附属棟で令和7年度宮崎県農業経営指導士会特別研修会が開催されました。

県全体で26名の農業経営指導士が出席し、うち管内からは4名（2名はリモート）が出席しました。研修内容は「環境負荷低減に関する施策や支援制度」をテーマに、九州農政局と県農業普及技術課のそれぞれの担当者から、国と県のみどりの食料システム戦略に関する具体的な取組等について説明がありました。また、環境負荷低減の実践例として、新富町の法人代表者から有機米生産の取組について事例紹介がありました。

出席した農業経営指導士からは、みどり認定の仕組みやメリット等が理解でき非常に参考になる研修であったなどの感想が聞かれました。

(5) 令和7年度北諸県地域農業者研修会の開催

3日、令和7年度北諸県地域農業者研修会（農作業安全と農業機械の保守管理研修）を、県農業試験場畑作園芸支場で開催しました。

研修会には新規就農者と管内農業法人の従業員を中心に計11名が出席しました。研修は、農作業安全について普及センター担当者が講習を行い、農機具メーカー担当者から、実際にトラクターを使った適切な基本的動作と保守管理方法について説明を行いました。

受講生からは、安全な基本動作等についてトラクターを使って実践してもらい非常に満足する研修であったなどの感想がありました。



(研修会の様子)

II 主な普及指導活動等の取組

1 総合プロジェクトに関する普及活動

(1) 北諸県地域を支える多様なアグリプレイヤーの確保・育成

1) 就農相談を実施

9件（肉用牛繁殖・露地野菜・水稻1件、養鶏1件、水稻4件、露地野菜1件、施設野菜1件、果樹1件）の就農相談があり、認定新規就農者制度や補助事業の説明を行いました。うち、4件については、青年等就農計画の作成支援を行い、今後のスケジュールについても確認しました。

今後も地域の大切な担い手につながるよう継続して支援していきます。

2) 北諸県地域農業者研修「経費が増えても利益が残る農業経営の考え方」の実施

5日、農業経営コンサルタントの高津佐和宏氏を講師に招き、資材高騰で、経費が増加していく中でも、利益を出して農業を続けていく手法を学ぶ研修を実施しました。研修はオンラインで県内の各普及センター等にも配信し、農業者・関係機関合わせて70名程度が受講しました。研修では、規模拡大すれば、それに応じて農業経営にかかる時間を多くすることや、整理整頓が重要であることなどが説明され、参加者は今後の取組にとってもいい指針を得ることができました。



(利益が残る農業経営研修会)

3) みやざき次世代農業リーダー養成講座の開催

17日、ファームサイド（株）の佐川友彦氏を講師に、県庁会場と普及センターのサテライト会場において農業経営とビジネスモデルについて研修が行われました。管内からは新規就農予定者と新規就農者の計3名が出席し、今後の経営計画を立てるに当たって大変参考になったと思われまます。

4) 農業経営力強化研修（労務管理・雇用確保）の実施

19日、農業大学校で行われたリカレント研修のアーカイブ視聴により、労務管理と雇用確保の研修を行いました。アーカイブ視聴により、受講者は都合のよい時期に大画面で研修を受けることができるようになりました。研修には施設野菜や露地野菜等での新規就農者や新規就農予定者6名が出席し、今後、規模拡大で雇用が必要になった場合の労災保険の手続きや人件費の試算、雇用者を確保するためのマッチングアプリ等について学びました。

5) 第1回農業経営計画作成研修（畜産）の実施

20日、肉用牛繁殖経営での新規就農を予定している4名に対して、認定新規就農者の認定に必要となる青年等就農計画作成するための第1回目の研修を実施しました。また、新規就農予定者同士が交流を深められるようお互いの自己紹介も行いました。今後、新規就農予定者が自分自身で青年等就農計画作成できるように、研修を実施していきます。



(経営計画作成研修)

6) 施設園芸におけるデータ活用人材育成研修（新規就農者向け）の開催

24日、(株)デルフィー日本の担当者を講師に、農業大学の会場と普及センターのサテライト会場において、自動かん水装置の活用技術について研修が行われました。管内からは施設園芸での新規就農予定者と新規就農者の計4名が出席し、根の役割等の植物生理や光合成を高めるためのかん水方法を学びました。新規就農予定者にとっては今後就農し、栽培技術を向上させるにあたって、とても有意義な内容でした。

(2) 北諸県地域の持続可能な肉用牛産地づくり

1) 子牛セリ市場での営農相談窓口設置

12日、子牛セリ市会場に、営農相談コーナーを設置しました。受付会場に訪れる生産者からイタリアンライグラスに生える雑草について相談を受け、防除方法等を説明しました。また、子牛価格が高騰したことで生産者からは、安堵の声が聞かれました。今後も、農業者の多く集まる子牛セリ市で営農相談活動を行っていきます。

2) 関係機関（NOSAI）と連携した巡回指導

4、18、24日、NOSAIみやぎきの獣医師と連携し、重点対象農家4件の巡回指導を行いました。NOSAI獣医師による超音波装置を用いたフレッシュチェック（分娩後の卵巣等の機能回復確認）や妊娠鑑定等を行い、普及センターからは、敷料と堆肥処理の重要性について説明を行いました。今後も関係機関一体となって、生産性向上に向けた支援を行っていきます。

(3) 地域を牽引する集落営農法人の育成による収益性の高い北諸県農業の構築

1) 経営ビジョンの検討

9日、きつとかな田で経営ビジョンについて検討しました。

概ね10年先までの経営目標を初期、中期、長期の3つのステージに分けて、労働力不足の補充や新たな栽培技術の導入、コストダウン等の課題毎に具体的な取組みを整理しました。

今後はビジョンの達成状況も踏まえながら経営改善に向けた取組を支援していきます。



(経営ビジョンの作成の様様)

(4) 農地と水を活用した魅力ある大規模畑作経営体の育成

1) トヨタ生産方式を活用した経営改善の実施

16日～17日に管内の露地野菜法人においてトヨタ自動車の担当者と改善の進捗確認と改善作業を行いました。

ホワイトボードに作業スケジュールを記載することにより作業遅れの解消が期待され、また、倉庫の内容物一覧を作成・掲載することにより、工具類を探す時間の短縮が期待されます。

改善作業は今後も続くので継続的に支援を行っていきます。



(年間スケジュール表の作成)

2) 畑かん営農推進に向けた担当者会の開催

18日に担当者会を開催し、散水器具の導入計画及び推進状況等について共有しました。また、未採択地区の推進に向けてグループワークを実施し、課題及び具体的な方策について協議しました。今回出された意見を参考に今後も関係機関で協力しながら、畑かん営農の推進に取り組みます。



(グループワークによる協議)

3) 挿し苗育苗の生育状況確認

18日、管内で大規模に挿し苗育苗に取り組む農家の生育状況確認及び生育調査を実施しました。

11月末から増殖を開始し、2月中旬には苗床が満床となり、目立った病害虫等ありませんでした。

今後は生育調査及び増殖に関する情報収集を継続して行っています。



(苗床の様子)

2 専門プロジェクトに関する普及活動

(1) 高品質茶生産、コスト低減による茶業経営の安定化

1) 都城茶PRイベント

29日、3月1日、都城茶PR活動として北諸県地区茶業青年会と共同で品種茶(シングルオリジン)のテイクアウト及び販売会を道の駅NIQLLで開催しました。

都城茶試飲会のアンケートを元に品種の紹介文やポジションマップの改善を行った他、対面で消費者に品種の特徴を伝えることで、好みの品種を選んでいただきました。

今後は次回イベントに向けた品種選定を行い、更なる品種茶の魅力発信を行っていく予定です。



(イベントの様子)

(2) 高い生産性を実現する施設きゅうり産地の育成

1) 令和7年度みやざきデータ駆動型農業実践研修会（第4回）が開催

25日に普及センター研修室で室内研修（リモート）、翌26日には都城市内2ほ場において現地研修が行われ、4名の生産者が参加しました。

第4回目となる今回は「高温対策」がテーマで、現地ほ場では遮熱塗布剤や外気導入等の対策を検討しました。

現地コンサルを受けた1戸からは、「3月に遮熱塗布剤を使用してみる」との声が聞かれ、研修内容が具体的な取組に繋がりはじめている様子がみられました。

本研修は今回が最後となります。参加農家からは「新たに学ぶ内容が多く有意義であった」との評価があり、今後の栽培管理への活用が期待されます。



(外気導入の設置に向けた助言)

(3) 生産者が描く未来ビジョンを達成できるいちご産地の育成

1) JAみやざき都城地区本部いちご専門部会 新規就農者巡回の実施

2日及び19日、三股支部のR7年度新規部会員2戸をJA営農指導員と巡回し、管理や生育の状況を確認しました。

1戸は達観では生育に問題はなかったものの、毎月測定 of 硝酸態窒素濃度が1月の適正值より低かったため、慎重に給肥濃度を上げるよう助言しました。また、1戸は2日時点で水分不足でがく枯れ症状が出ているため、かん水量を少しずつ増やすよう助言し、次の花房のがく枯れを回避できたことを19日に確認しました。今後も定期的に新規部会員の支援を継続していきます。



(がく枯れした花房と新しい花房
花と葉縁に溢泌液を確認)

(3) 産地ぐるみでブランド化に取り組むへべす産地の育成

1) へべす栽培におけるの剪定労力省力化に向けた展示ほを設置

16日、都城市安久町及び庄内町のへべすモデル園地2圃場にて、標記展示ほを設置しました。慣行の剪定方法に対し、ヘッジトリマーを使用し既存の開心自然形の樹形に整えるものと、同じくヘッジトリマーを使用して垣根状に樹形を仕立てるものの2つを試験区とし、県内の果樹普及指導員、総合農業試験場果樹部の山名主任研究員とともに、展示ほ設置や調査を行いました。

生産者からは「剪定作業が省力化されるのであれば、多少の減収は気にしない」、「トリマー剪定はやり方が分かりやすい、是非取り組んでみたい」との意見を頂きました。

令和8年度から、着花量や着果量、剪定時間等を調査し、部会員にフィードバックして栽培管理改善につなげていきます。



(剪定前の樹形を撮影)



(トリマーで高さ2.3mに剪定)



(開心自然形にトリマー剪定)

III プロジェクト以外の普及活動（一般活動）

(1) プチヴェールの全戸巡回を実施

4日、管内プチヴェール生産ほ場をJA 営農指導員とともに巡回しました。

生産者17戸のうち14戸のほ場を回り、現在の生育を見ながら、今後の出荷見通しを確認しました。

巡回では、量、回数ともにしっかりかん水している園地ほど生育がよく、草丈から年末までのかん水量、欠株の状況から定植初期のかん水量が推察されました。

また、結球した脇芽が収穫物となりますが、かなり上まで収穫が進んでおり、2月中旬に収穫を終える園地も多く、3月中旬頃には収穫終了となることが見込まれました。

今後は、次作以降にかん水管理の重要性を指導していく予定です。



(各園地で草丈計測)



(収穫が進んでいる)



(芯を止めている株)

(2) 北諸県地区ブランド協議会きんかん品評会の開催

16日、北諸県地区ブランド協議会主催の令和7年産きんかん品評会が開催され、JAみやざき都城地区本部きんかん生産部会5戸の完熟きんかんの果実品質を評価しました。

昨年に続く高温により、7年産のきんかんは1、2番花の着果が少なかった部会員もいましたが、適正かん水と秋冬の晴天に恵まれたことで、果実肥大も糖度も良好でした。

評価結果はきんかん生産部会員に示され、完熟きんかん「たまたま」ブランド品質の維持のため活用されます。



(きんかん品評会)

(2) JAみやざきマンゴー部会 巡回の実施

5日及び19日、マンゴー部会員の園地を巡回し、管理や生育状況とミツバチ導入タイミングを確認しました。

直近3年の秋口の高温の影響は大きく、いずれの園地も後期出荷に徐々に近づいており、出蕾の揃う時期、開花期とハチ入れの時期が平年より大きく遅れてきています。ヒートポンプ冷房等の手段のみでは作期の前進化が困難な状況になりつつあり、部会員は県全体で受粉用ニホンミツバチの導入時期が遅れることで需給が崩れ、値段の高騰や最悪の場合導入できない状況を危惧されていました。今後、県農産園芸課を通じて県外の情報収集に努め、JAと連携して生産者へ情報をおつなぎしていく予定です。



(2月中旬満開の園地)



(高温で出蕾の進みが遅れた園地)

(3) 都城・北諸県果樹産地協議会の開催

25日、果樹農業推進方針・果樹関係事業活用について関係機関で協議を行う都城・北諸県果樹産地協議会が開催されました。

事務局から、協議会員の賛同により新たな果樹産地構造改革計画が策定されたことを報告しました。また、令和6年度のマンゴー新植事業完了及び平成29年度・令和3年度事業のくり・へべすの事業取組状況確認の結果について、今年度事業の実施状況として報告されました。また、令和9年度事業においてへべす新植で事業活用予定であることを協議会員に情報共有しました。

(4) データ駆動型農業の先進事例調査（スイートピー・いちご）

25日に岡山県、26日に香川県にて、JA 営農指導員2名と普及指導員1名で標記調査を行いました。

岡山県では、倉敷市の船穂（ふなお）スイートピーにおける事例について、備南広域農業普及指導センターの普及指導員から説明いただきました。

また香川県では、香川県農業試験場にて、いちごにおける取組「さぬきファーマーズステーション～みんなの農業記録～」について、果菜類の農業革新支援専門員（本県でいう専技）からお話を伺いました。

宮崎県では、これまで「きゅうり」、「ピーマン」に対象を限定して取り組んでいますが、令和8年度からは「スイートピー」や「いちご」も対象品目となる見込みのため、環境データと照合する生育指標を何で見ているのか、生育の調査者や頻度など、具体的な事例を知ることができ、非常に有意義な調査となりました。



(備南普及センター)



(生育指標「葉身長」)



(香川県農業試験場)

(5) スイートピー県産品点検の実施

27日、大阪鶴見花き地方卸売市場にて、スイートピーの県産品点検が行われました。

宮崎県内5産地（はまゆう、都城、尾鈴、日向、高千穂）と県外4産地（大分県、岡山県、和歌山県、愛知県）の薄紫～紫系品種、4P2Lの規格で、出荷規格や花シミ・傷みの発生等を調査しました。

その後、点検サンプルの花を見ながら、卸会社の株式会社なにわ花いちばと株式会社JF 鶴見花きの2社の担当者から産地ごとの評価をいただきました。

今回の調査結果及び市場担当者からの意見は、取りまとめ後、各産地の普及指導員、JA 営農指導員、生産者に共有され、今後の栽培や出荷調整、流通の見直しに活かしていく予定です。



(花シミ・傷みを調査)



(出荷規格を点検)



(市場との意見交換)

(6) 都城市特別融資制度推進会議の開催

19日、都城市特別融資制度推進会議が開催されました。今回は近代化1号資金2件の申請があり、書面審査の結果、すべて承認されました。